

令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 小豆島町 （都道府県： 香川県 ）

1. 当該地域の情報（令和 5 年 12 月現在）

地域の課題	町内の外国人比率は 1.5%を超え、存在感を増している。町の高齢化率は 44%を超え生産年齢人口の減少が深刻であるため、技能実習や特定技能などの在留資格を持つ外国人は欠かせない存在となっており、今後も大幅な増加が見込まれている。特に若年層において外国人の存在感が大きく、20 歳代の人口に占める割合は 10%近くにはのぼる。外国人の存在感が増すにつれ、彼らが地域の中で孤立する懸念も同時に高まってきている。外国人住民の中には日本語が不自由で職場に馴染めない者も多く、失踪する事例も年に数件報告されている。また離島であるため、他地域の外国人コミュニティとの交流も生まれにくく、外国人住民が孤立しやすい環境にあると言える。地域住民も外国人に必ずしも慣れておらず、多文化共生意識の醸成が求められている。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】 192 人 【外国人比率】 1.5%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】 ベトナム 59 人 フィリピン 42 人 インドネシア 29 人 中国 22 人 ミャンマー14 人 米国 5 人 ラオス 3 人 韓国 3 人 英国 2 人 スペイン 2 人 ほか 【在留資格】 技能実習 64 人 永住者 38 人 特定技能 27 人 留学 13 人 日本人の配偶者等 12 人 技術 人文国際 4 人 特別永住者 3 人 特定活動 2 人 定住者 2 人 家族滞在 2 人 ほか （在留資格のデータは令和 5 年 3 月現在） 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習の滞在年数に大きな変化は見られないが、特定技能が前年に比べ大幅に増加している。
在住外国人の 日本語教育の現状	技能実習や特定技能等の在留資格を持つ外国人は全体の 6 割を超えるが、監理団体等が行う研修以外に日本語教育を受ける機会がなかったため、日本語能力が不十分なまま働いている者も多い。また日本語能力試験に取り組む実習生も多いため、町内企業の多くが日本語教育の機会を求めている。さらに町内にはここ数年、永住者や日本人の配偶者など多様な在留資格を持つ外国人の存在も目立ち始めている。彼らは一定水準以上の日本語能力を有するケースが多いが、学習意欲が高く、学びの場を求めている。日常会話だけでなく、職場や防災時の日本語、読み書き、文法、高度な日本語など、幅広いニーズに対応した日本語教室が必要とされている。

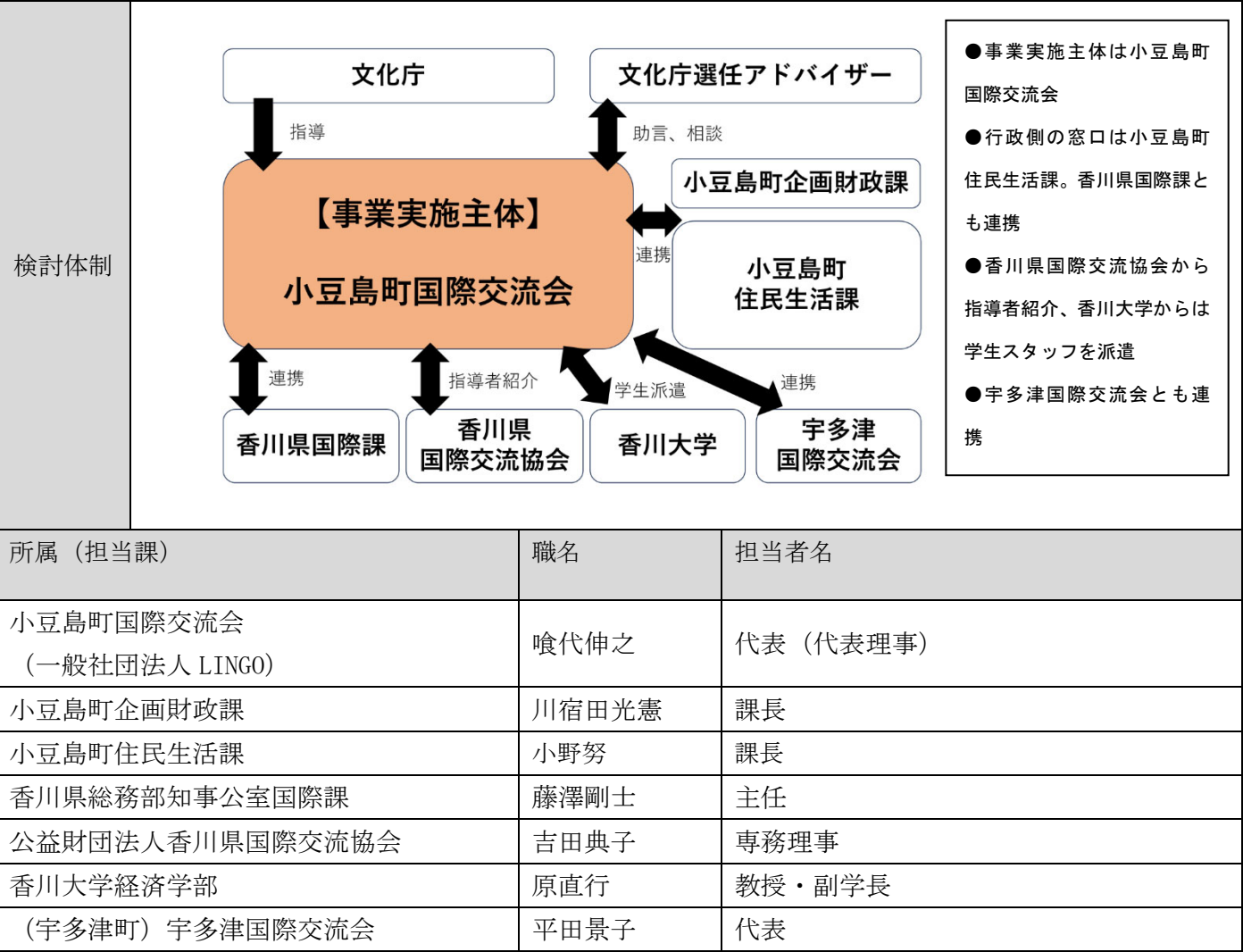
2. 事業の内容

本プログラム 取組年数	3 年目
事業の目的	事業の目的は、日本語教室の運営を通じて、「多文化共生のまちづくりを進めること」である。 町は「第 2 期小豆島町の総合戦略（令和 2 年 3 月）」の中で、少子高齢化が深刻化する町の現状に鑑み、外国人材の活用は必要不可欠であるとした上で、「今後町民と外国人が共に活躍できる環境の整備を進める」との方針を示している。 多文化共生施策は非常に多岐にわたるが、共通の課題として「言語」の問題があることから、まずは日本語教育を施策の中核と位置付け、長期的視野のもと多文化共生の基盤づくりを進めている。

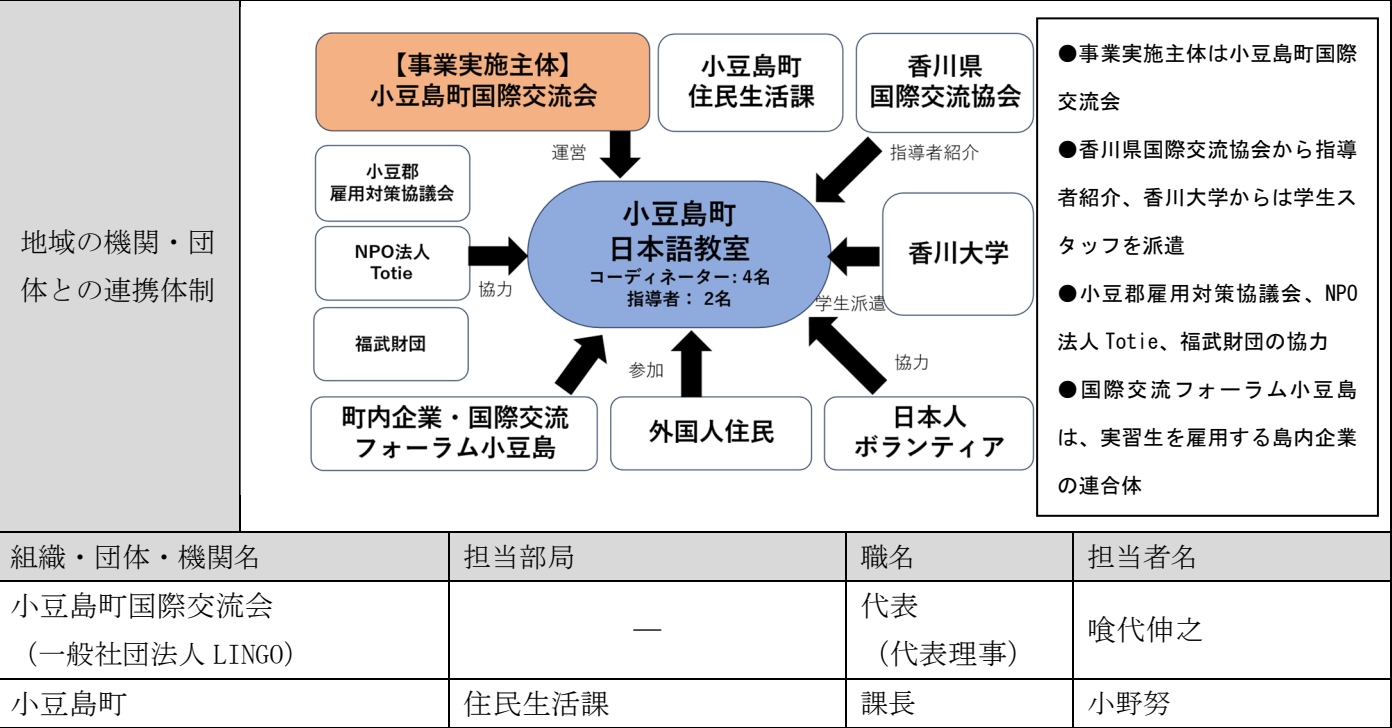
事業の概要	事業の柱は以下の4つ。 【① 日本語教室の安定運営】 教室立ち上げ3年目となる今年度についても引き続き日本語教室の安定運営の実現を図った。令和4年度後半から外国人参加者の増加と指導内容の多様化によりスタッフの負担が大きくなっていたが、新たにコーディネーターを増員するなどして運営体制を整え、令和5年5月から6年2月までの間に計14回の教室を開催した。 【② 小豆島内在住指導者及びサポーターの確保・育成】 日本語指導者及びスタッフの人材不足が深刻である状況を踏まえ、困難ではあるが一人でも多くのスタッフの確保を目指した。町広報等で新たな日本語指導者及びサポーターの募集を行い、島内在住の新たな指導者の確保には至らなかったものの、新たなサポーターを数名、また新たなコーディネーターを1名確保した。令和5年度後半から、指導者とサポーターの連携を前提とした教室運営マニュアルの作成を行った。 【③ 任意団体「小豆島町国際交流会」の法人化】 事業終了後を見据え、これまで運営を担ってきた任意団体「小豆島町国際交流会」を法人化することを目標としていた。令和5年11月に新たなコーディネーターが加入したことでそれが現実味を帯び、令和6年2月、正式に一般社団法人LINGOの設立が実現した。 【④ 関連する取組】 関連する取組として、防災ワークショップ、食を通じた国際交流ワークショップ、苗羽小学校国際交流クラス、地域日本語教育公開フォーラムを開催した。また、広島国際センター及び広島県呉市日本語教室の視察を行った。			
事業の対象期間	令和5年5月22日～令和6年3月11日			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	【外国人参加者の増加と教室の規模拡大】 事業を開始した令和3年度から4年度にかけて、外国人参加者が増加し教室の規模が徐々に拡大している。3年度は計13回（対面7回、オンライン6回）の開催で、5か国から計6名が参加した。4年度は計16回（全て対面）開催し、9か国から計33名が参加した（※参加者数は重複をカウントせず）。開催が定期的となり、企業や外国人住民の間で教室についてより知られるようになった。 【運営体制の拡充】 参加者からのニーズに応じてクラスを増設してきた。4年11月からは基本2クラス（A1、A2）、応用1クラス（B）の3クラス体制で運営するようになった。有資格の日本語指導者を2名に、スタッフも3名に増加させ、サポーターやボランティアも毎回数名確保できるようになった。 【関連する取組の実施】 4年7月より毎回のクラス開催にあわせて日本文化体験を通じた日本語指導を導入し、教室の魅力向上を図っている。また関連する取組として、11月に「食を通じた国際交流ワークショップ」を開催したほか、香川県・小豆島町の共催で「多文化共生サポーター養成講座（全3回）」を実施するなど、教室の認知度向上、多文化共生意識の醸成、さらに将来的な指導者・サポーターの育成のための様々な取組を行った。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	喰代伸之	小豆島町国際交流会 (一般社団法人LINGO)	代表 (代表理事)	全体統括、書類作成、 団体立ち上げ等
	上谷健二	小豆島町国際交流会 (一般社団法人LINGO)	(理事)	教室運営、団体立ち上げ等
	松田美夜日	小豆島町商工観光課	地域おこし協力隊	全体のサポート、会計等
	白沢佳倫	小豆島町企画財政課	地域おこし協力隊	全体のサポート、広報等
	三浦温子	岡山大学	日本語教師	教室運営
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	砂川裕一	群馬大学	名誉教授	継続（3年目）
	中東靖恵	岡山大学大学院	准教授	継続（3年目）
	犬飼康弘	ひろしま国際センター	日本語常勤講師	継続（3年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



国際交流フォーラム小豆島	(宝食品株式会社代表取締役社長)	会長	大野英作
小豆郡雇用対策協議会	事務局	—	大塚一步
特定非営利活動法人 Totie	—	事務局長	大塚一步
公益財団法人福武財団	アートマネジメント担当部	部長	大内航
技能実習生を雇用する町内企業	—	—	—
公益財団法人 香川県国際交流協会	—	事業課長代理	松崎愛

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和5年 4月			
令和5年 5月	・日本語教室開催 (5/28)	・教室運営業務 ・事業計画書作成	
令和5年 6月	・日本語教室開催 (6/25) ・事業計画書提出	・教室運営業務 ・事業計画書作成、修正	★サポーターに関する ルール策定 (オンライン)
令和5年 7月	・日本語教室開催 (7/23) ・アドバイザー会議 (7/23)	・教室運営業務	★全体運営、サポーター 対応、平日夜教室開催、 指導者・サポーターの新 規募集、学生の教室参加 等
令和5年 8月	・防災ワークショップ (8/5, 8/20) ・日本語教室開催 (8/27)	・教室運営業務 ・新たな指導者、サポーターの募集 ・平日サロン型教室の準備、運営マ ニュアルの作成	
令和5年 9月	・平日サロン型教室の試験的開 催 (9/12) ・日本語教室開催 (9/24)	・教室運営業務 ・平日サロン型教室の準備、運営マ ニュアルの作成	★指導者との合意形成 (オンライン)
令和5年 10月	・平日サロン型教室の試験的開 催 (10/10) ・日本語教室開催 (10/22) ・食を通じた交流ワークショッ プ (10/29)	・教室運営業務 ・サポーターとの連携を前提とした 運営マニュアルの作成	★令和6年度以降の運 営 (オンライン)
令和5年 11月	・平日サロン型教室の試験的開 催 (11/14) ・日本語教室開設に向けた研究 協議会事例発表「離島に対応し た日本語教育の展開」(11/22) ・日本語教室開催 (11/26) ・令和6年度予算に関する協議	・教室運営業務 ・サポーターとの連携を前提とした 運営マニュアルの作成 ・新旧コーディネーター引継ぎ	
令和5年	・平日サロン型教室の試験的開 催 (12/12)	・教室運営業務 ・事業進捗確認書の作成	★日本語教育公開フォ ーラム

12 月	・アドバイザー会議 (12/17) ・日本語教室開催 (12/24) ・令和 6 年度予算に関する協議	・日本語教育公開フォーラムの準備	★運営マニュアルの内容
令和 6 年 1 月	・苗羽小学校国際交流クラス (1/12, 19, 26) ・日本語教室開催、実地調査 (1/28)	・教室運営業務 ・日本語教育公開フォーラムの準備	★日本語教育公開フォーラムのプログラム、基調講演及びトークセッションの内容 (オンライン)
令和 6 年 2 月	・苗羽小学校国際交流クラス (2/2) ・ひろしま国際センター、呉市日本語教室視察 (2/10, 11) ・一般社団法人 LINGO 設立 (2/20) ・日本語教室開催 (2/25)	・教室運営業務 ・ハンドブック事例記事の作成 ・日本語教育公開フォーラムの準備	★日本語教育公開フォーラムのプログラム、基調講演及びトークセッションの内容 (オンライン) ★運営マニュアルの内容、視察対応
令和 6 年 3 月	・日本語教育公開フォーラム「小豆島町における地域日本語教室の役割」開催、アドバイザーの町長表敬 (3/10) ・花見イベント (3/31)	・日本語教育公開フォーラムの準備	★日本語教育公開フォーラム、基調講演及びトークセッション当日

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		小豆島町日本語教室					
外国人参加者について		〔国籍〕ベトナム 15 名、インドネシア 4 名、中国 4 名、フィリピン 1 名、米国 1 名、英国 1 名、カナダ 1 名、イタリア 1 名、香港 1 名、台湾 1 名 〔属性〕技能実習生、特定技能、定住者、日本人の配偶者等					
参加者数 (内 外国人数)		受講者 30 名 支援者 26 名 (日本語指導者 2 名、サポーター 24 名)					
開催時間数		総時間 19 時間			内訳 1.5 時間 × 10 回 + 1 時間 × 4 回		
目標		外国人にとって拠り所となる日本語教室を目指す。また本プログラム終了後を見据え、長期にわたって持続可能な運営体制の構築を目指す。					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2023 年 5 月 28 日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町役場	9	休みの日の過ごし方、小豆島のイベント	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・ひらがな練習 ・日本語でできることチェック ・全体交流	日本語指導者 2 名 サポーター 8 名
2	6 月 25 日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町役場	7	病院の受診	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・ひらがな練習 ・全体交流	日本語指導者 2 名 サポーター 3 名
3	7 月 23 日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町役場	7	買い物、洋服屋での試着	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・全体交流	日本語指導者 2 名 サポーター 4 名
4	8 月 27 日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町役場	14	出身国の紹介、小豆島の紹介	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習	日本語指導者 2 名 サポーター 6 名

						・全体交流	
5	9月12日(火) 19:00～20:00	1	小豆島 観光協会	1	日本人が使う 応用表現	・サロン型教室	サポーター2名
6	9月24日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町 役場	5	料理・味の表 現	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・全体交流	日本語指導者2名 サポーター4名
7	10月10日(火) 19:00～20:00	1	小豆島 観光協会	2	フリートーク	・サロン型教室	サポーター2名
8	10月22日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町 役場	8	会社で使う日 本語	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・全体交流	日本語指導者2名 サポーター7名
9	11月14日(火) 19:00～20:00	1	小豆島町 役場	2	フリートーク	・サロン型教室	サポーター4名
10	11月26日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町 役場	9	災害時の日本 語	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・香川大学学生によ る災害時の日本語セ ッション、アンケート 調査	日本語指導者2名 サポーター8名
11	12月12日(火) 19:00～20:00	1	小豆島町 役場	1	リーディング 練習	・サロン型教室	サポーター2名
12	12月24日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町 役場	9	1年の振り返 り	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・会話練習 ・全体交流	日本語指導者2名 サポーター5名
13	2024年 1月28日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町 役場	7	2024年の目標	・主催者あいさつ ・レベルチェック ・ひらがな練習 ・会話練習 ・全体交流	日本語指導者2名 サポーター2名
14	2月25日(日) 10:30～12:00	1.5	小豆島町 役場	5	対話交流型教 室に向けて	・主催者あいさつ ・プロファイリング シートの作成 ・各々の日本語学習 法について共有 ・全体交流	日本語指導者2名 サポーター6名

【主な活動】



日本語教室基礎クラスの様子
令和5年7月23日(日)



香川大学学生による災害時の
日本語セッション
令和5年11月26日(日)



全体交流の様子
令和6年1月28日(日)

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	教室の立ち上げに関しては、事業開始1年目である令和3年度中に実現していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大きな制限を受け、教室の開催が不安定であった。4年度以降制限が大幅に緩和され、より安定した教室運営が可能となった。
--------------------	---

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
防災ワークショップ	令和5年8月	小豆島内在住外国人が増加している現状を踏まえ、座学及び実践形式の防災ワークショップを、外国人向け、日本人サポーター向けにそれぞれ行った。 【内容】(全2回) 第1回 8/5(土) 10:00～16:30 「防災・小豆島の現状について学ぼう」 於：サン・オリーブ 第2回 8/20(日) 10:00～17:00 「共に助け合う小豆島の防災を实践しよう！」 於：小豆島町役場 【主催】 JICA 四国、(特非) えひめグローバルネットワーク 【協力】 小豆島町、土庄町、香川県立小豆島中央高等学校、香川県
食を通じた交流ワークショップ	令和5年 10月29日(日) 10:00～14:30	外国人住民と地域住民の交流を促進するため、町の取組として食を通じた交流ワークショップを行った。外国人住民と地域住民の参加を募り、地域の公民館で料理、ゲーム等を行った。
苗羽小学校国際交流クラス	令和6年 1月12日(金)、 19日(金)、 26日(金)、 2月2日(金)	町内の苗羽小学校において、「総合的な学習の時間」を活用し、生徒と町内在住外国人の交流を目的とした国際交流クラスを全4回にわたり開催した。全校生徒を対象に外国人との共生社会や「やさしい日本語」に関するレクチャーを行うとともに、8か国から10名の外国人を招いて、グループごとに、クイズ、歌、ゲームなどの交流を行った。
ひろしま国際センター、呉市日本語教室視察	令和6年 2月10日(土)、 11日(日)	持続可能な教室運営を実現するため、かねてより、サポーターとの高度な連携を前提とした運営の方法を模索していた。アドバイザーの助言のもと、そのような方針で行っている日本語教室を実際に見学する必要が生じたため、2日間の日程で行った。
日本語教育公開フォーラム「小豆島町における地域日本語教室の役割」	令和6年 3月10日(日) 13:30～15:00	3年間のプログラムが終了するにあたり、日本語教育公開フォーラムを開催した。 【目的】 小豆島町及び香川県内の行政関係者、議員、企業、住民等に対し、これまでの日本語教室活動経過を報告するとともに、今後この取組をさらに発展させるためより一層の理解・協力を促すため。 【内容】 第1部 ・基調講演「地域日本語教育の役割～3つの柱について」(文化庁アドバイザー 砂川裕一) ・事業実績報告「小豆島町における地域日本語教室の取組」(コーディネーター 喰代伸之) 第2部 ・トークセッション「小豆島町の地域日本語教育のこれから」(登壇者)

		砂川裕一 文化庁アドバイザー 犬飼康弘 文化庁アドバイザー 喰代伸之 コーディネーター 小野努 小豆島町住民生活課長 阪倉順子 サポーター (ファシリテーター) 中東靖恵 文化庁アドバイザー 【主催】 小豆島町、一般社団法人 LINGO 【参加者】 町長、副町長、町役場関係者、町議会議員、香川県議会議員、町内企業・団体、住民、日本語教育関係者、香川大学、JICA 四国等
--	--	--

【主な活動】



苗羽小学校国際交流クラス
(やさしい日本語講座)
令和 6 年 1 月 12 日 (金)



苗羽小学校国際交流クラス
(交流の時間)
令和 6 年 2 月 2 日 (金)



日本語教育公開フォーラム
「小豆島町における地域日本語教室の役割」
令和 6 年 3 月 10 日 (日)

進捗状況	【教室参加者の推移】 事業を開始した令和 3 年度当初と比べると、翌 4 年度は参加者が大幅に増加し、その数は外国人 31 名、日本人サポーター 15 名となっていた。最終年である 5 年度についても、外国人 30 名、サポーター 24 名（※数は重複をカウントせず）が参加し、同等かそれ以上の規模を維持している。 【運営体制の拡充】 令和 4 年度に引き続き、参加者の増加や入れ替わりがあり、教室へのニーズも多様化しているため、基本 2 クラス (A1、A2)、応用 1 クラス (B) の 3 クラス体制の運営を続けている。コーディネーターの負担が継続的に大きくなっていったため、5 年 5 月に新たに 1 名、11 月にも新たに 1 名確保した。さらに全体統括コーディネーターと教室運営コーディネーターに役割分担をすることで、より持続可能な運営体制を作った。また、毎回一定数のサポーターが確保できていたため、個々の参加者のレベルや希望に基づくきめ細かい対応を行うことができた。
事業推進にあたり問題点と対応策	【コーディネーター人材の不足】 令和 5 年度においても、3 クラス体制が続き参加者のニーズも多様化していたことから、教室の継続・発展のために検討すべき事項が増え、コーディネーター間あるいは指導者との協議の時間が増え続けていった。コーディネーターの業務量の増加と人材不足が深刻化し困難も多かったが、コーディネーター間で協力して人材探しを進め、11 月に適合する人材を確保することができた。この新たなコーディネーターに教室運営を担ってもらうことで、徐々に代表コーディネーターが統括業務に専念できるようになり、運営体制が整った。これにより、これまで企画段階で止まっていた取組（日本語教育公開フォーラムの開催）を実現することができた。 【日本語指導者の確保】 人口減少が進む離島であるという環境から、有資格の日本語指導者を島内で確保することが困難であった。結果として、プログラム期間中の 3 年間の大部分を、日本語指導については島外からの有資格者に依頼するかたちとなった。有資格者による講義型の教室は参加者からの評判が非常に良かったが、遠方から通ってもらうというかたちが、コーディネーターにとっても指導者にとっても容易とは言えず、長期にわたって持続可能ではなかった。今後も長期にわたって 2 人の有資格者を安定して招へいすることは見込めなかったため、令和 5 年の夏頃より、教室の形式をこれまでの講義型から対話交流型に切り替え、島内在住のサポーターと高度に連携した教室運営を目指すこととした。その後、アドバイザーや有資格者から助言をいただき、協議を重ねる中で新たな教室運営

	マニュアルの作成を進めた。令和 6 年度以降は、有資格者の力を借りつつも、よりサポーターとの連携を重視した教室の開催を続けることとなっている。
成果	【教室の維持・発展】 教室に参加する外国人及びサポーターの数については、令和 4 年度と同等かそれ以上の規模を維持している。 【教室の認知度の向上】 SNS、チラシ、町広報等の媒体を使って継続的に広報活動を行ってきたほか、四国新聞にも 2 度にわたって取材を受け記事となった（令和 5 年 7 月 30 日付、6 年 3 月 15 日付）。これにより、教室の認知度が向上した。 【小豆島町の予算の確保】 プログラム終了後の令和 6 年度については、町予算を確保した。これにより、これまでと同様の運営体制、開催頻度で教室を継続できることとなった。 【一般社団法人 LINGO の設立】 これまで教室運営を担ってきた任意団体「小豆島町国際交流会」は、令和 6 年 2 月 20 日に法人化の手続きを終え、一般社団法人 LINGO の設立に至った。 【関連する取組の実施】 関連する取組として、防災ワークショップ、食を通じた国際交流ワークショップ、苗羽小学校国際交流クラスを実施した。 【日本語教育公開フォーラムの開催】 小豆島町及び香川県内の行政関係者、議員、企業、住民等に対し、これまでの日本語教室活動経過を報告するとともに、今後この取組をさらに発展させるためより一層の理解・協力を促すため、「小豆島町における地域日本語教室の役割」と題した公開フォーラムを開催した。地域日本語教育の必要性について一定の理解が得られるとともに、イベントが新聞にも取り上げられることで、共生社会に向けた意識醸成を図る良い機会になった。
地域の関係者との連携による効果	【香川県国際交流協会】 令和 4 年度に引き続き、香川県国際交流協会の紹介で有資格の日本語指導者が来島を続け、教室の指導を担った。 【香川大学経済学部】 令和 4 年度に引き続き、5 年度も香川大学経済学部ゼミが教室運営に参画した。学生は応用クラスのアシスタント役を務めたほか、11 月の教室では「災害時の日本語」をテーマに、教授や日本語指導者のサポートのもとで日本語セッションの企画・実行を担った。学生はこれをもとに卒業論文を執筆した。大学の協力により、教室の規模拡大、内容の充実が実現しただけでなく、副次的効果として島内住民からも注目を集めることとなった。
コーディネーターの主な活動	①計画策定及び事務全般（120H） 企画運営全般、事業計画書・事業進捗確認書・事業報告書・ハンドブック事例記事等の作成、アドバイザー会議の設定・連絡調整、コーディネーター・指導者間の課題・対応策の共有、コーディネーター情報交換会・研究協議会等への参加、小豆島町をはじめ香川県・香川県国際交流協会・香川大学等連携機関との情報共有、業務の記録、会計事務 ②企業・外国人住民等への働きかけ（20H） 企業訪問、チラシ作成、SNS を活用した教室開催の周知、メディア対応 ③日本語教育プログラムの構築（20H） 日本語教育プログラム作成、教室に対するニーズの聞き取りとレベルチェック、平日サロン型教室・サポーターとの連携を前提とした教室の運営マニュアルの作成、サポーター対応方針の作成 ④日本語教室の定期開催（120H） 教室運営、会場の準備、指導者の送迎、反省会 ⑤新たな日本語指導者及びサポーターの獲得、育成（20H） 関係機関との調整、町広報による募集 ⑥一般社団法人 LINGO の設立（25H） ビジョン策定、定款の作成及び認証、その他設立に係る手続き全般 ⑦関連する取組（50H） 防災ワークショップ、食を通じた国際交流ワークショップ、苗羽小学校国際交流クラス、ひろしま国際センター・呉市日本語教室視察、日本語教育公開フォーラム「小豆島町における地域日本語教室の役割」

アドバイザーの 主な助言	・サポーターの対応方針 有償・無償をめぐる考え方、役割の明確化 ・教室の頻度を増やす方法 対話交流型教室の導入、日時・場所の選定、通常の指導型教室と対話交流型教室の区別 ・指導者とサポーターの追加募集 追加募集の方法、募集する側の配慮 ・中学生、高校生の参加を促す方法 ・参加者の出席確認の方法 ・SNS をめぐるトラブルの回避 ・指導者とのより良い合意形成の方法 ・令和 6 年度以降の運営について 持続可能な教室運営の方法、ビジョン、町予算の確保 ・教室運営について 平日夜サロン型教室・サポーターとの連携を前提とした教室の運営マニュアルの内容、教材の選定や使用方法、参加者のプロファイリング ・日本語教育公開フォーラム「小豆島町における地域日本語教室の役割」 開催の意義、準備の進め方、プログラムの内容、基調講演及びトークセッションの内容、アンケートの内容
今後の課題	【コーディネーター及び日本語指導者の人材不足】 令和 5 年度中のコーディネーターの増員により、運営体制は以前より安定してきているが、今後も外国人参加者が増加しニーズの多様化が進んだ場合に、現体制で十分に対応できるか、やや不安が残っている。引き続き、追加のコーディネーター及び日本語指導者の増員を目指すとともに、町予算以外の活動資金確保も視野に、運営体制をさらに拡充させていきたい。
今後の予定	(1)今後の日本語教育事業の展開について ①日本語教室の展開 令和 6 年度についても、これまでと同様、月 1 回から 2 回のペースで開催を続ける。より持続可能な運営体制の実現を目指し、多くのサポーターとの密な連携を前提に、マニュアルに基づく教室運営を進める。外国人との共生社会に向けた取組の中核として、対話・交流を重視し、引き続き、外国人にとっての拠り所となる教室の実現を図る。 ②日本語教室の実施主体と行政の関与について これまで教室運営を担ってきた任意団体「小豆島町国際交流会」は、令和 6 年 2 月 20 日に法人化の手続きを終え、一般社団法人 LINGO の設立に至った。6 年 4 月 1 日、小豆島町と委託契約を結び、新法人が実施主体として日本語教室及び多文化共生関連事業を進めることとなっている。 ③財源の確保について 令和 6 年度については、小豆島町の予算を確保している。 (2) 今後の予定（取組等） 一般社団法人 LINGO として、これまで続けてきた教室開催を進めるとともに、島内遠隔地への日本語サポーターの派遣、外国人集住地域における新たな交流イベントの実施、外国人生活相談等の取組を計画している。

本件担当： 小豆島町役場住民生活課人権推進室